



平成27年4月24日（金）、北海道立教育研究所において、平成27年度北海道教育研究所連盟総会及び所長研修会を開催しました。

総会では、平成26年度の事業等についての報告及び平成27年度の事業計画をはじめ、連盟委員の選出、協議事項等、全ての議案が承認されました。

また、総会に引き続いて行われた所長研修会では、旭川市教育委員会金丸浩一委員長の講演と、道研連の事業の効果的な活用及び各教育研究所・研修センターの学校支援の取組状況やその在り方、所員の力量向上について協議を行いました。



総会の様子

所長研修会講演

演題 「教育研究所・研修センター長に期待すること」

講師 旭川市教育委員会委員長 金丸浩一

■ 教員に求められる資質能力

1 教員の資質能力への関心

教員に求められる資質能力には、その時代に育てたい子ども像や望ましい学校像が反映されている。そのため、教員に求められる資質能力を検討することにより、教員研修の在り方についての改善の視点を得ることができる。教員の資質能力の向上に関する国民の関心や期待は現在も高い。特に、北海道は、学力や体力に課題があり、道民の関心が高いことから、問題意識をもち、自らの資質能力の向上を考える必要がある。



旭川市教育会 金丸委員長による講演の様子

2 「資質能力」という用語

教員の資質能力とは、教科や教職に関わる専門的な知識・技能の側面、子どもたちへの教育的愛情や使命感、社会性、人間性といった人格の側面、この両面を合わせた概念である。

3 国の諸答申

平成 10 年答申で、「教員には、社会の変化に適応するための多様な資質能力が求められ、教員一人一人がこれらについて最小限必要な知識・技能等を備えることが不可欠である」と指摘している一方で、「全ての教員が一律にこれら多様な資質能力を高度に身に付けることを期待しても現実的でない」とも示している。

つまり、得意分野をもつ個性豊かな教員の必要性和、教員集団の連携・協働、家庭や地域社会との協力、スクールカウンセラーなどの教員以外との連携・協働が行われている学校像の重要性が提言されている。それぞれの得意分野を発揮する様々な人が互いに連携することで、今言われている学校力を高めることに必然的につながっていくと考えられている。

■ 研究・研修事業の見直し・改善

人格と専門性に支えられている教員の資質能力というのは、いつの時代にも求められる資質能力であり、今後の変化の激しい時代にあっても対応できる能力である。

教職生活全体を通じて、高度専門職業に向かって学び続ける教員、探究力をもった教員が求められている。したがって、教育研究所・研修センターには、このような期待に応えていくことが望まれる。

所長研修会 協議内容

○ 加盟機関の取組

- 昨年度の夏季所員研修会に参加した所員を中心に、研修会の内容を参考にして「夏季講座」を開催することとしている。
- Web サイトを開設し、事業内容を周知している機関があるが、今後、道研連の Web サイトを充実し、各教育研究所・研修センターの相互の交流や共同研究の内容の周知を図るように検討していく。



所長研修会の協議の様子